

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

かえで

日付 平成19年12月26日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「やはり入院させなくて良かった。ここの皆さんによくしていただけて、本当に有り難かった。感謝しています」このグループホームかえでで初めての看取りを終え、〇〇さんのお嫁さんからこんな言葉をかけてもらった管理者は、その経緯を話しながら今も涙を滲ませている。どの段階でも本当にこれで良いのだろうかと不安と葛藤を抱え込みながら、迷いに迷った日々だったが、職員・家族との数知れない話し合いの中で乗り切る力を得た。悲しみの涙・感動の涙は、今は得がたい大きな力になっている。

かえで開設から後半年で5年が経つ。ターミナルケアの経験と同時に「昨日まで出来ていた事が、今日は出来ない」といった現実が目に見えて増えて来ている。委えてしまいそうな気持ちを奮い立たせて管理者・職員は「今、この時点で何とかして、今、持てる力を持続させたい」と決意を新たにしている。食事の下拵えから下膳、食器洗い、洗濯物の取り入れ・畳み等、「頼まれてやる」とか「やらされている」といった空気ではなく、それぞれに「私の仕事」といった感じで動いているのは、きっと職員の強い思いが通じているからだろう。「私の居場所」の確保にも、職員はあれこれと工夫を重ねていて「賑やかではないかもしれないが、ほっと出来る雰囲気」が確かに感じられる。

また、職員が手出しをぎりぎりまで我慢して待って、じっと見守る温かな視線をいっぱい見つけた。支援のタイミングの良さに裏に隠された業務を、自主評価表のコメント欄にきちんと書き込んで、日々確実にこなしていている。

このように、ホーム全体から熱意や真摯な姿勢が伺われるが、ヒヤリハットの記録や、本人・家族へのアンケートの実施等からも、常に自分達のケアの在り方を反芻して現状に満足していない。

関連グループ間で実施している「改善コンクール」も今年は4回目を迎える。「一人ひとりを見つめ直し、個々の能力を生かした温かいケア」に繋がる研究発表を期待している。いずれのチームも非常に研究熱心で、向上意欲等も強いグループの中で切磋琢磨出来る環境は、素晴らしい事と思う。

特に改善の余地があると思われる点

利用者の意思表示が出来る間に「バックグラウンドの記述補充」及び「現在のトピック的な言動の記録」を後々の参考の為に書き留めておかれるのはどうでしょうか。

家族との交流も進んでいるようですが、もう一步踏み込んで、出来る協力をお願いしてみてください。また、地域の人達には「まずこのホームに入ってもらって、知っていただく」ということをお願いしてみてください。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…ホームの運営理念の職員間の共有や具体化については自主評価項目の改善点として取り上げられていないし、実際日々の暮らしに即した現実的な目標を掲げて実現している。ただ運営理念の啓発については運営推進会議を通じて理解を広めようとし、また、地域へ向けた広報紙を発行予定しているところである。</p> <p>2、全体的に見て…「個々の能力を生かした温かいケア」の理念が各種細部にわたる綿密な計画に裏打ちされた業務の下で実現しているのがよく理解出来た。この業務を基本に捉え、利用者の心身の状況の変化に柔軟に対応していくならば、このグループホームかえでが目指すところに辿り着くものと確信している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…自主評価票では要改善は見当たらない。「入居時に使い慣れた生活用品を持って来て欲しいとお願いしているが十分ではない」と管理者は言うが、各々その人らしい居室になっていて良いのではないかと。</p> <p>2、全体的に見て…「大きな声で笑おう」「春を見つけに外へ出よう」「一人ひとりを見つめながら体調管理を」「工夫した声かけで気候にあった服装を」等、各ユニット毎に毎月の具体的な目標が挙げられており、利用者がほっと出来るような環境や雰囲気を作ろうとしている。緑を多く取り入れたり、家具の配置の工夫等ハード面の場づくりだけでなく、リビングルーム周辺では働き場・おしゃべりの場・楽しみの場・勉強の場等、職員がさりげない誘いかけをして「生活している場」を盛り上げている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…要改善項目として特に挙げてはいないが、利用者の心身の状況の変化に伴って今まで以上に「一人ひとりの持てる力の維持」を意識しているという。「この人のペースが本当に尊重されているのだろうか」という自戒の姿勢も強い。いかなる状況になっても、こういった反省や姿勢は失いたくないし、「先入観を持たないで、その人を見て新しい発見をしよう」といった視点も忘れたくない。</p> <p>2、全体的に見て…一人ひとりの力と経験を尊重し、少なくとも今の力を持続させたいと職員は真剣に考え、よく努力している。しかし、その人の生きて来た道程の掘り下げや隠されているかもしれない光る物の発見、さらにその人を表舞台に立たせる方法等に工夫の余地があるかもしれない。「今がチャンス」という利用者もいるようだ。普通の生活の中に「ピカッ」と光るものを増やして欲しい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…サービスの質の向上に向けて、現在一番に改善していきたい事は「地域の人達との交流」という話を何度も聞いた。運営推進会議も地域住民の理解を得て順調に滑り出している。「町内会長さんが、かえでは要するに一つの大きな家族と思えばいいんだな、とってくれて嬉しかった」と管理者が話すように、地域交流の足場が出来ているなど感じた。</p> <p>2、全体を通して…このホームへの家族の訪問は多く、もちろん全員ではないが、かなり親密な関係になっているように思われた。また、今日の訪問者の中には、ある利用者の友達で紙細工等を教えてくれるボランティアさんも見えた。このようなホームの協力者の輪がこれからもどんどん広がり、オープンな雰囲気のホームに育っていけばケアの質もさらに向上していく事だろう。「認知症って、どんな人だろう?」と疑問に感じている近隣の人達への啓発も積極的にお願いしたい。</p>		